

40974

教科書文庫

4
1760
3-1914
01304 49467

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

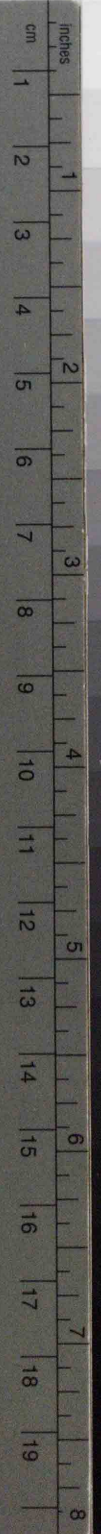


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



中央図書館

拔萃 尋常小學唱歌

第五學年

東京高等師範學校教諭 大橋 銅造
學習院 教授 納所 辨次郎 共編
東京高等師範學校教諭 田村 虎藏

發賣所
株式會社
國定教科書共同販賣所

広島大学図書

0130449467



緒言

- 一、本書は、尋常小學校唱歌科教師用として、明治三十九年十月九日、**文部省檢定濟**となりし『尋常小學校唱歌』、並に、高等小學校教師兒童用として、同四十一年八月五日、**文部省檢定濟**となりし『高等小學校唱歌』第一・二學年の教材中より、現今の唱歌教授に、最も適切なるものを拔萃して、各學年毎に合本したるものなり。
- 二、教材は、尋常小學校第一學年より、同第六學年に至るまで、之を各學年各學期に配當し、序を追ひて教授するに適せしめたり。
- 三、歌詞の假名遣が、現行小學校讀本と一致せざる所あるは、當初、文部省の檢定を経たるまゝを襲用したればなり。實地教授の際、其の心して取扱はれんことを望む。

四、當時の高等小學第一・二學年は、即ち、現今の尋常小學第五・六學年に相當せり。されば、今回の拔萃合本を期として、其の名義を改め、以て、彼此の混同を避けたり。

五、本書出版以來、年既に久しく、夙に絶版の状態にありき。しかも江湖の需要、今猶衰へずして、之が供給を希望せらるゝこと、其の數少からず。此を以て、本發行者は、本書を複製して、此の要求を充たさんことを謀り、編者と原發行者との同意を得て、茲に、此の合本を刊行するに至れり。一言を附して其の由來を述べること此の如し。

大正三年三月十日

編者識

尋常小學唱歌

第五學年

目次

第一學期	
一 春の景色	三
二 招魂祭	五
三 神功皇后	七
四 進取の歌	九
五 三浦半島	二
六 箱根山	五
七 日本海海戦	八
八 妙義山	三
九 田村麻呂	四
第二學期	
一〇 松島	七
一一 上杉鷹山	元
一二 富士登山	三
第三學期	
一三 秋の山	三
一四 助船	七
一五 源義經	元
一六 養老の瀧	三
一七 紫式部	五
一八 名古屋城	七
第四學期	
一九 聯隊旗	五
二〇 ナイチンゲール	七
二一 北國の雪	九
二二 源為朝	元
二三 梅の花	三
二四 護良親王	五
二五 終業式の歌	七

目次

一



一、すみれつみつつ、 歸り行く、
 春のゆふべの 村の道。
 ともなひ来る 蝶ちよ 二つ、
 あるひは、先に、 また、後に、
 手に持つ花を したひ来る
 蝶ちよ の心の 愛らしさ。
 いざ。来て遊べ、 もろともに。
 櫻さかりの わが庭に。』



春の景色



讀國本定

春の景色

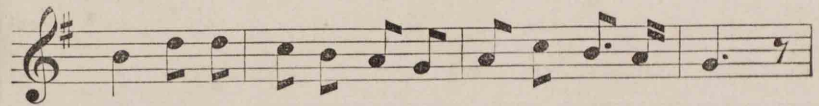
(と調二拍子)

愉快ニ

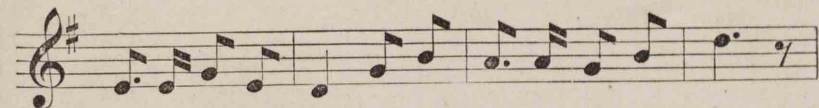
納所氏



3. 3 2 1 | 6. 1 6 5 | 1 3 2. 1 | 2. 0 |
 1. スーミレ ツミツツ カヘリユク
 2. テニモツ ハーナチ シタヒクル



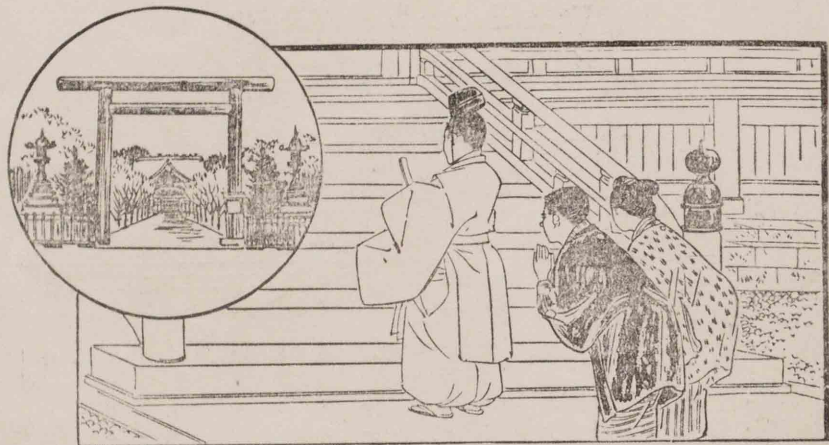
3 5 5 | 4 3 2 1 | 2 4 3. 2 | 1. 0 |
 ハルノユフベノムラノミチ
 チョーノココロノアイヲシサ



6. 6 1 6 | 5 1 3 | 2. 2 1 3 | 5. 0 |
 トモナヒキタルチヨーフタツ
 イザキテアソベモロトモニ



5. 5 4 3 | 2. 2 3 3 | 4 3 2. 3 | 1. 0 ||
 アルヒハサキニマタアトニ
 サークラサカリノワガニハニ



招魂祭

招魂祭

(と調四拍子)

Moderato. J. R. weber.

3 | 6. 7 1 2 | 3. 4 3 2 | 1 1 2 1 | 7 - 0 |

1. コ ノ ヨ ニ ウ マ レ テ タ レ カ シ セ ×

2. ミ ク ニ ノ ミ タ メ ニ ウ セ シ ミ タ マ

3 | 6. 7 1 2 | 3. 4 3 2 | 1 1 2 1 | 7 - 0 |

シ シ テ モ ノ コ ル ハ ク チ × ホ マ レ

タ フ ト ビ ア ガ メ テ カ ミ ト イ ツ ク

7 | 2 2 7 7 | 1. 2 3 3 | 4 2 3 1 | 2 - 0 |

ク チ セ × ホ マ レ ノ ハ ナ ハ ナ ニ ソ

ミ タ マ チ マ ネ キ テ マ ツ ル ケ フ ソ

5 | 3. 3 4 3 | 2 3 1 5 | 3. 3 2 2 | 1 - 0 ||

ミ ク ニ ノ ミ タ メ ニ ウ セ シ ヒ ト ヲ

ミ タ マ ヨ ミ ソ ラ ニ ミ ク ニ マ モ レ

招魂祭

招魂祭

★佐々木氏

一、この世に生れて、誰か死せぬ、

死しても残るは、朽くちぬほまれ。

くちせぬほまれの、花は何ぞ、

皇國のみために、亡うせし人ぞ。

二、皇國のみために、うせしみたま、

たもと尊びあがめて、靈神といつく、

みたまを招きて、祭る今日ぞ、

みたまよ、み空に、皇國守れ。」



一、
 手を弱女ながら、太刀はきて、
 弓矢取らしし、み姿は、
 天照神の、をたけびの、
 神代のことぞ、おもほゆる。』

神功皇后
 阪
 氏

二、
 み船を送る、沖つ浪、
 新羅をさして、うち寄せつ。
 これ、神なりと、國王は、
 をのき恐れ、降りけり。』

三、
 神の御國のみ光を、
 海の外、遠く、かがやかし、
 あふがしめしは、足姫、
 後の君ぞ、はじめなる。』

神功皇后

(變ほ調四拍子)

田村氏

壯大ニ

mf

5 5 1 7 | 1. 2 3 | 5 3 2. 1 | 2-. 0 |

1. タ チ ヤ メ ナ ガ ラー タ チ ハ キ テ
 2. ミ フ ネ チ オ ク ルー オ キ ツ ナ ミ
 3. カ ミ ノ ミ ク ニ ノー ミ ヒ カ リ チ

5 5 1 7 | 1. 1 5- 3 3 2. 2 | 1-. 0 |

ユ ミ ヤ ト ラ シ シー ミ ス ガ タ ハ
 シ ラ ヤ チ サ シ テー ヴ チ ヨ セ ハ
 ヲ タ ノ ト ト ホ クー カ ガ ヤ カ シ

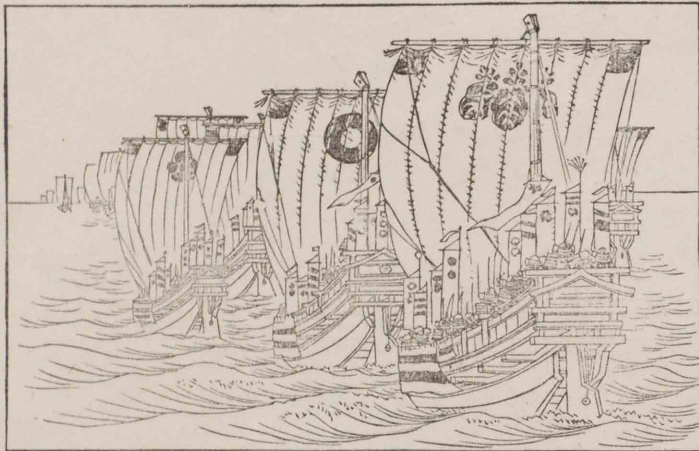
5. 5 5 5 | 3. 4 5- 6. 6 i 6 5-. 0 |

ア マ テ ル カ ミ ノー チ タ ケ ビ ノ
 コ レ カ ミ ナ リ トー コ ク オ ー ハ
 ア フ ガ ー シ メ シ ハ タ ラ シ ヒ メ

mf

3. 3 5 1 | 2. 2 2- 3 3 2. 2 | 1-. 0 |

カ ミ ヨ ノ コ ト ゴー ガ モ ホ ユ ル
 チ ノ ノ キ オ ツ レー ク ダ リ ケ リ
 キ サ イ ノ キ ミ ゴー ハ シ メ ナ ル



進取の歌 大和田氏

一、國威を四海に、かがやかさんと、
 大軍おこして、波路を渡り、
 うち入る我兵、破れし明軍、
 それより我には、手出しも得せず。

二、豊臣秀吉、かれ、何人ぞ、
 我らも同じく、日本の男兒、
 國家のためには、社會のためには、
 火水の中にも、進めや進め。

進取の歌

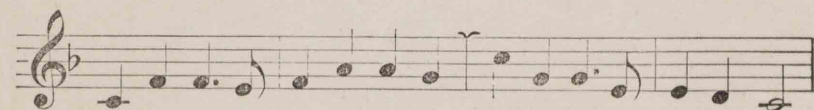
(ハ調四拍子)

快活ニ

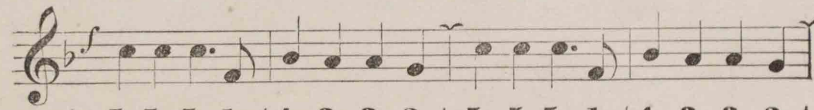
Mendelssohn.



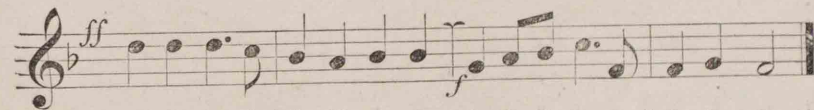
5 1 1. 7 | 1 3 3 2 | 5 5 5. 4 | 3 2 3- |
 1. コクイチ シカイニ カガヤカ サントー
 2. トヨトミ ヒテヨシ カレナニ ビトゾー



5 1 1. 7 | 1 3 3 2 | 5 2 2. 7 | 7 6 5- |
 タイグン オコシテ ナミゲチ ラタリー
 アレラモ オナジケ ニホンノ ダンジ



5 5 5. 1 | 4 3 3 2 | 5 5 5. 1 | 4 3 3 2 |
 ウチイル ラガヘイ ヤブレシ ミングン
 コッカノ タメニハ シカインノ タメニハ



6 6 6. 5 | 4 3 4 4 | 2 3 4 5. 1 | 1 2 1- |
 ソレヨリ アレニハ テダーシモ エセズー
 ヒミツノ ナカニモ ススーメヤ ススメー

三浦半島

(は調二拍子)

田村氏

樂シメニ



5. 5 1. 1 | 7. 7 6. 5 | 4. 4 6. 5 | 5. 0 |

1. トーカイドーチャーユクキシヤチ
2. ココハーグンコーヨーサイチ



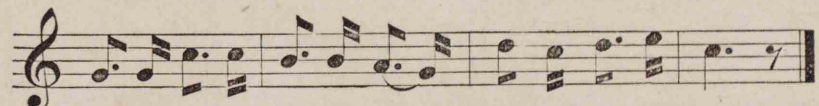
5. 5 6. 6 | 5. 5 4. 3 | 1. 1 3. 2 | 2. 0 |

オホフナエキニノリカヘテ
ゾーセンショーニダイドック



5. 5 5. 5 | 3. 3 5. 6 | 5. 5 3. 5 | 6. 0 |

スグルーカマクラヅシタウラ
カイグンチンジュフアルトコロ



5. 5 1. 1 | 7. 7 6. 5 | 2. 1 2. 3 | 1. 0 ||

ハヤヨコスカニツキニケリ
ウカアヨグンカンスイライテイ

三浦半島

10

三浦半島

石原氏

一、東海道を、行く汽車を、

大船驛に、乗りかへて、

すぐる鎌倉、逗子・田浦、

はや、横須賀に、つきにけり。

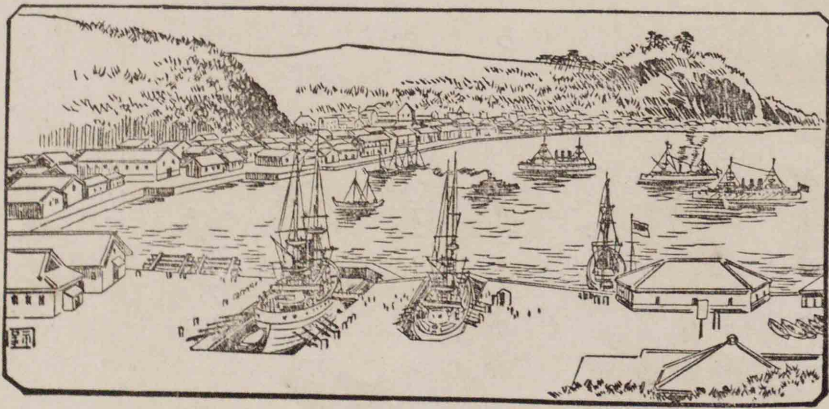
二、ここは軍港、要塞地、

造船所に、大ドック、

海軍鎮守府、あるところ、

浮ぶよ、軍艦、水雷艇。

三浦半島



11

三、海兵團は、忠勇の、

水兵たちの 養成所。

造船所は、軍艦や、

水雷艇を、つくる場所。」

四、近き浦賀は、黒船の、

はじめて着きし、處とて、

時の使節に、來りたる、

ペルリの記念碑

立てるなり。」

五、横須賀港より、やとひ舟、

観音崎は、その東、

かなたは千葉の 富津の洲、

東京灣の 咽喉ぞ。」

六、ここを固むる 砲臺は、

寄せくる敵を、待つごとく。

光まばゆき 燈臺は、

よるの勤めを、

怠らず。」



三浦半島

七、南にめぐりて、 劔が崎、

三崎のはしに、 城が島、

ここにも立てる、 燈臺は、

ゆききの船の

道しるへ。」

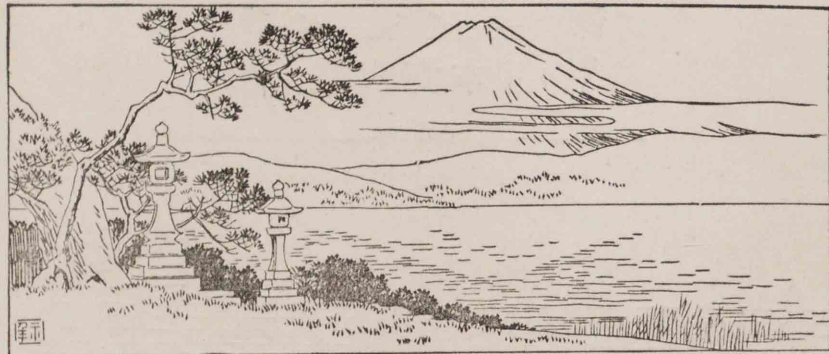
八、葉山や、逗子を 右に見て、

三浦半島、 ひとめぐり、

つひやす時は 僅かにて、

得ること多き

旅路かな。」



一、昔の人の、難所と云ひし、
 山路八里の、箱根山
 今は汽車路の、きりひらかれて、
 越すは時の間、夢の中
 二、昔の人の、なやみし山路、
 今は楽しき、箱根山
 富士の根うつる、湖水に遊び、
 清きいでゆに、ゆあみして。
 温泉

箱根山
 佐々木氏

箱根山

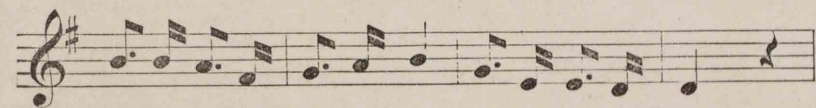
(と調二拍子)

爽快ニ

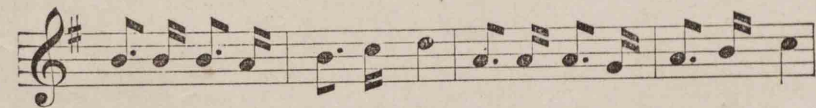
Scotland Hymn.



	5.	5.	5.	3.	5.	6.	1.	6.	6.	6.	5.	6.	7.	1.
1.	△	カ	シ	ノ	ヒ	ト	ノ	ナ	ン	シ	ト	イ	ヒ	ヅ
2.	△	カ	シ	ノ	ヒ	ト	ノ	ナ	ヤ	ミ	シ	ヤ	マ	ヅ



3.	3.	2.	7.	1.	2.	3.	1.	6.	6.	5.	5.	0.
ヤ	マ	ダ	ハ	チ	リ	ノ	ハ	コ	ネ	ヤ	マ	
イ	マ	ハ	タ	ノ	シ	キ	ハ	コ	ネ	ヤ	マ	



3.	3.	3.	2.	3.	4.	5.	2.	2.	2.	1.	2.	3.	4.
イ	マ	ハ	キ	シ	ダ	ノ	キ	リ	ヒ	ラ	カ	レ	テ
フ	ジ	ノ	ネ	ウ	ツ	ル	コ	ス	イ	ニ	ア	ソ	ビ



5.	3.	2.	3.	1.	2.	3.	1.	6.	6.	5.	5.	0.
コ	ス	ハ	ト	キ	ノ	マ	ユ	メ	ノ	ウ	チ	
キ	ヨ	キ	イ	デ	ユ	ニ	ユ	ア	ミ	シ	テ	

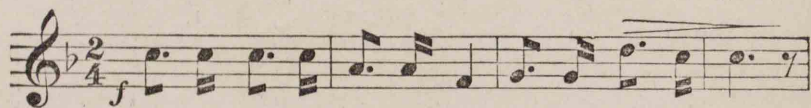
日本海海戦

(ハ調二拍子)

日本海海戦

勇 壯 =

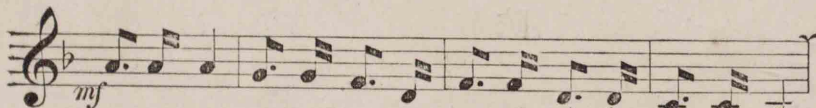
田 村 氏



5. 5 5. 5 | 3. 3 1 | 2. 2 6. 5 | 5. 0 |

1. ニ ッ ホ ン カ イ ジョー ナ ミ タ カ シ

2. サ ッ キー フ ン プ ン ウ ミ ク ラ シ

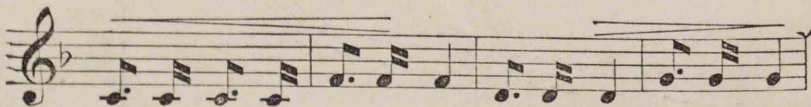


3. 3 3 | 2. 2 1. 6 | 1. 1 6. 6 | 5. 5 3 |

シ ジ ュー ヨ セ キ ノ ロ コ クー カ ン タ イ

カ ナ ニ ノ リ タ ル ツ イ ガ キ ヤ シ ュー

一七



5. 5 5. 5 | 1. 1 1 | 6. 6 6 | 2. 2 2 |

シ ヅ カ ニ ス ス ム ヒ ガ シ ス イ ドー

テ キ カ ン ツ ヒ ニ ホ カ ク ゴー ヤ ン

日本海海戦

(つづき)

日本海海戦



3. 2 1. 2 | 3. 3 2. 2 | 3. 2 3. 4 | 6. 5 5 0 |

マ チ マ ウ ケ タ ルー フ ガ カ ン タ イ ノ

シ ジ ュー ヨ セ キ ノ カ ナ キ エ ハ テ テ

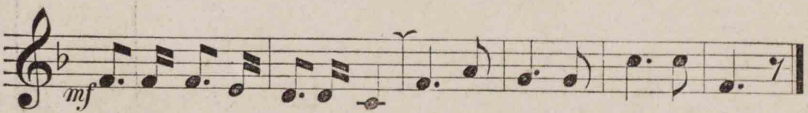


5. 5 5. 5 | 6. 6 6 | 5. 5 3. 1 | 3. 2 2 0 |

ウ チ モ ラ サ シ ト イ サ ミ ニ イ サ ム

カ ナ ド キ タ カ ク ヒ ビ キ ニ ヒ ビ ク

一六



1. 1 1. 7 | 6. 6 5 | 1. 3 | 2. 2 | 5. 5 | 1. 0 ||

ミ ク ニ ノ コー ハイ ア ア コ ノ イ ッ キョ

ミ ク ニ ノ ホ マ レ ア ア コ ノ タ イ ショー

日本海海戦 兼 蘆田氏

一、日本海上、波高し。

四十餘隻の、露國艦隊、

静に進む、東水道。

まち設けたる、

わが艦隊は、

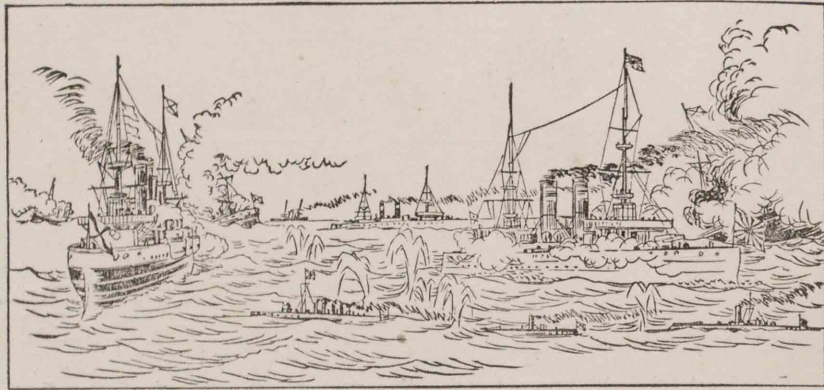
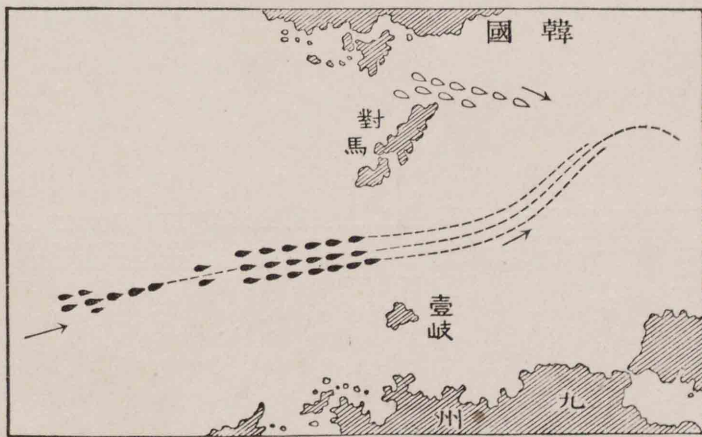
うちもらさじと、

勇みに勇む、

皇國のこゝはい、

興廢

ああ、この一擧。



日本海海戦

二、殺氣紛紛、海暗し。

勝に乗りたる、追撃、夜襲。

敵艦つひに、捕獲、轟沈。

四十餘隻の

影さえ果てて、

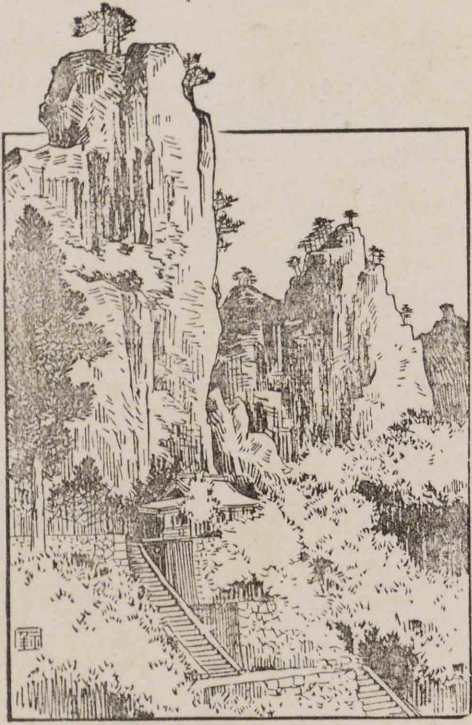
かちどき高く、

ひびきにひびく、

皇國のほまれ、

ああ、この大捷。

妙義山



巖も枯木も 花ぞ咲く。

冬来て見れば、 降る雪に、

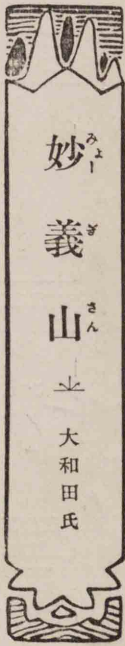
絶間に開くる 妙義山、

三、石門、高く 白雲の、

麓の若葉の蔭に鳴く。

夏来て聞けば時鳥、

一、峨峨たる巖連りて、 虚空に峙つ妙義山



妙義山

(に調三拍子)

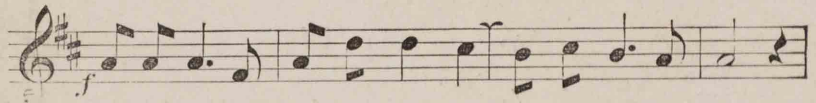
優美ニ

田村氏



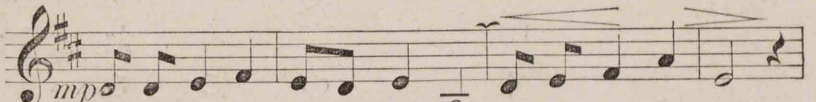
5 5 5. 3 | 6 5 5 3 | 1 2 3. 5 | 2-0 |

1. ガガタルイーハホツラナリテ
2. セキモンターカクシラクモノ



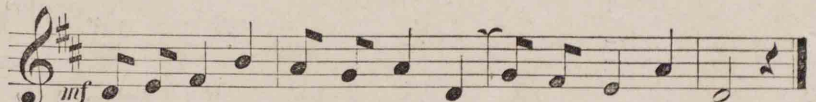
5 5 5. 3 | 5 i i 7 | 6 7 6. 5 | 5-0 |

コクニソバダツミョーギサン
タエマニヒラクルミョーギサン



1 1 2 3 | 2 1 2 5 | 1 2 3 5 | 2-0 |

ナツキテキークバホトトギス
フユキテミレバフルユキニ



1 2 3 6 | 5 4 5 1 | 4 3 2 5 | 1-0 ||

フモトノソカバノカゲニナク
イハホモカレキモハナゾサク

妙義山

田村麻呂

(へ調二拍子)

田村麻呂

勇壯ニ

田村氏

1. △ カ シ カ ン △ ノ ミ ヨ ニ
 2. ノ チ ノ ヨ マ テ ア フ ガ レ

エ ソ ウ チ シ ヒ ト ハ タ ヲ
 プ ト ケ イ ヨ イ ヨ タ カ シ

サ カ ノ ヘ ノ タ △ ラ マ ロ
 、 、 、 、 、 、 、 、 、

イ ク ソ タ ビ ア ラ ビ ソ △ キ シ
 モ ノ ノ フ ノ イ ク サ ノ カ フ テ

三三

田村麻呂

(つづき)

田村麻呂

6. 6 | 5. 3 | 2 3 | 1 6 |
 エ - ソ ノ シ コ ヲ サ
 イ ツ ツ ノ ハ - カ ニ

5 5 1 2 | 3- | 2 1 2 3 | 2 2 5 0 |
 ソ レ ヨ リ ソ - オ ト ロ ヘ ユ キ メ
 サ チ ア レ ト - イ ノ リ シ ナ ラ ヒ

5- | 3. 4 | 5 5 6 5 | 5- |
 ア - ナ - イ サ マ シ ノ -
 、 、 、 、 、 、 、 、

3- | 2. 1 | 2 5 | 1. 0 ||
 タ - △ ラ マ ロ ヨ
 、 、 、 、 、 、

三三



田村麻呂

桑田氏



一、むかし、桓武の御代に、

えぞ討ちし 人はたぞ、
蝦夷 誰

坂上田村麻呂

いくそたび、あらびそむきし、

えぞの しこくさ、

それよりぞ、衰へゆきぬ。

あな、勇ましの田村麻呂よ。」

二、後の世まで仰がれ、

武徳いよいよ高し、

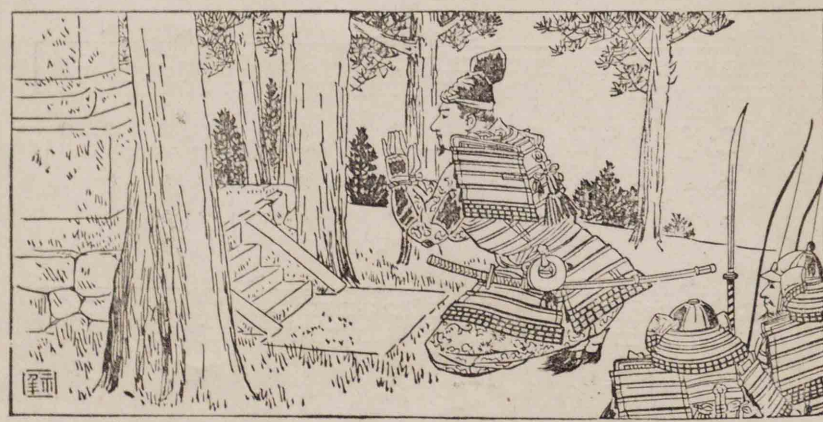
坂上田村麻呂

武夫のいくさのかどで、
門出

まづ その はかに、

さちあれと 祈りしならひ。
幸

あな、勇しの田村麻呂よ。」





一、立ちならぶ松の木、千年のこみどり、
 わだかまる大岩、その姿おもしろ。
 浪は白く、まさご地は清らか、
 ま帆や片帆、沖とほくこぎ行く。

二、これぞかの陸前、松島のながめぞ、
 日の本に名高き、三景の一つよ。
 人よ、ゆけよ、たくひなきこの地に、
 行きて遊べ、たくひなき樂園。

松

島

武島氏

松 島

(と調四拍子)

優美ニ

西洋曲

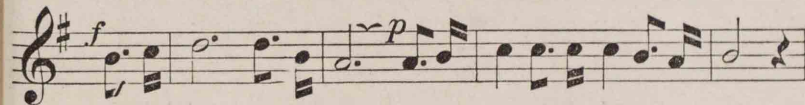
島



1. 1. 2 | 3 2 1 2 1 6 | 5-0 1. 2 | 3 3. 3 5 5. 3 | 2-0 |
 1. タチナラブマツノキ センネンノコミドリ
 2. コレゾカノリクセン マツシマノナガメゾ



1. 2 | 3 2 1 2 1. 6 | 5-0 1. 2 | 3 2 1 2 1 7 | 1-0 |
 フダカマルオホイハソノスガタオモシロ
 ヒノモトニナダカキサンケイノヒトツヨ



3. 4 | 5- 5. 3 | 2- 2. 3 | 4 4. 4 4 3. 2 | 3-0 |
 ナミハシロクマサゴダハキヨラカ
 ヒトヨユケヨタケヒナキコノチニ



1. 3 | 5- 3. 2 | 1- 7. 6 | 5 1. 3 2 1. 7 | 1-0 ||
 マホヤカタホオキトホクコギユク
 ユキテアソベタケヒナキラクエン



上杉鷹山

一、地を米澤にうつされて、

わづかに残る十五萬

おとろへ行くも ことわりや、

はかなき運の上杉家

三、税のからきに人は去り、

やうやう残る民すらも、

明日をあやぶむものうさに、

あれにあれゆく野も里も。



上杉鷹山

蘆田氏

上杉鷹山

(へ調二拍子)

中等ニ

岡野氏

Musical score for 'Uesugi Eiyasan' in 2/4 time, featuring two versions: 'Uesugi Eiyasan' (芦田氏) and 'Uesugi Eiyasan' (岡野氏).

Version 1 (Uesugi Eiyasan):

1. チ ナ ヨ ネ ザ ハ ニ ウ ツ サ レ テ
2. セ - イ ノ カ ラ キ ニ ヒ ト ハ サ リ

Version 2 (Uesugi Eiyasan):

1. ヲ ツ カ ニ ノ コ ル - ジ ュ - ゴ マ ン
2. ヤ ウ ヤ ウ ノ コ ル - & ミ ス ラ モ

Version 3 (Uesugi Eiyasan):

1. ハ カ ナ キ ウ ン ノ ウ ヘ ス ギ ケ
2. ア - レ ニ ア レ ユ ク ノ モ サ ト モ

上杉鷹山

三、年うらわかき、十七の、

鷹山公は、たたれたり。

心にひめし はかりごと、

なるやならずや、道遠し。」

四、境さかいに入れば、草に木に、

かなしみ深き 色の見ゆ。

おもひ定めし 身ながらも、

うち驚きぬ、今更に。」

五、されど思ひぬ、又更に、

艱難かんなん人を 玉となす、

精神ひとたび いたりなば、

いかなる業わざか ならざらん。」

六、おごりに馴なれし 老臣は、

公きみのしぶりに あきたらで、

大藩たいはんの主に 似合はざる、

もの吝せきみよと ささめきぬ。」

七、人のそしりを 物とせず、

勤と儉とを 枝しをりにて、

ただ一筋ひとすぢに 進み行く、

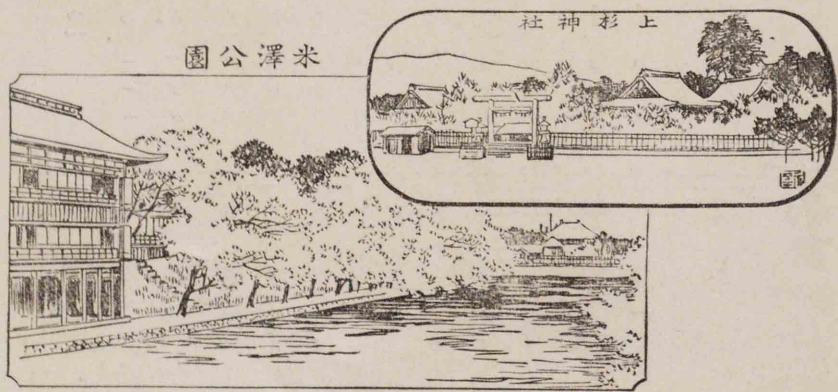
公きみが心ぞ、 たのもしき。」

八、そのかひ見えて 年年としとしに、

民のかまども、 にぎはひぬ。

米澤織の 名と共に、

今も高しや 公きみの恩。」

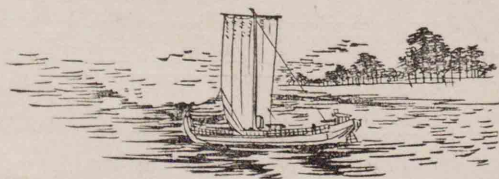




一、汽車の窓より、あふぎ見る
 富士のすがたの けだかさよ。
 雲より上に ぬけ出でて、
 いつも、たかねの 雪 白し。」

二、船のへさきに、ながめやる
 富士のけしきの おもしろや。
 さかさに、うつる うなばらの
 かけはるよりも、たくみにて。」

三、山は、世界に、多けれど、
 形のよきは この山ぞ。
 春のかすみの たつあした、
 秋の入日の さす夕べ。」



富士登山

※ 讀國

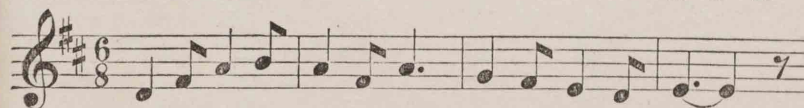
本定

富士登山

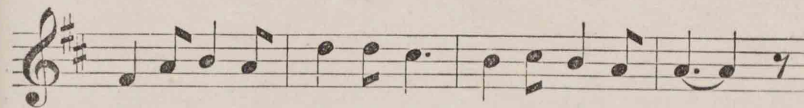
(に調六拍子)

快活ニ

納所氏



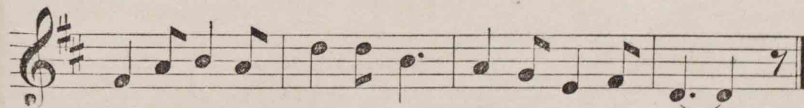
	1	3	5	6	5	3	5.	4	3	2	1	2.	2	0
1.	キ	シ	マ	ド	ヨ	リ	ア	フ	ギ	ミ	ル	-	-	-
2.	フ	ネ	ヘ	サ	キ	ニ	ア	ガ	メ	ヤ	ル	-	-	-
3.	ヤ	マ	ハ	セ	カ	イ	ニ	オ	ホ	ケ	レ	ド	-	-



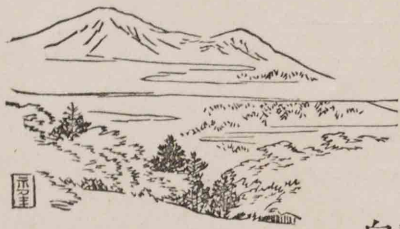
	3	5	6	5	i	i	7.	6	7	6	5	5.	5	0
	フ	ツ	ノ	ス	ガ	タ	ノ	ケ	ダ	カ	サ	ヨ	-	-
	フ	ツ	ノ	ケ	シ	キ	ノ	ケ	ガ	モ	シ	ロ	ヤ	-
	カ	タ	チ	ノ	ヨ	キ	ハ	コ	ノ	ヤ	マ	ソ	-	-



	i	7	2	i	7	7	6.	7	i	7	6	5.	5	0
	ク	モ	ヨ	リ	ウ	ヘ	ニ	メ	ケ	イ	テ	テ	-	-
	サ	カ	サ	ニ	ウ	ツ	ル	ウ	ナ	バ	ラ	ノ	-	-
	ハ	ル	ノ	カ	ス	ヨ	ノ	タ	ツ	ア	シ	タ	-	-



	3	5	6	5	i	i	6.	5	4	2	3	1.	1	0
	イ	ツ	モ	タ	カ	ネ	ノ	ユ	キ	シ	ロ	シ	-	-
	カ	ダ	ハ	エ	ヨ	リ	モ	タ	ク	ミ	ニ	テ	-	-
	ア	キ	ノ	イ	リ	ヒ	ノ	サ	ス	ユ	フ	ベ	-	-



秋の山

栗の實ひろひて、
 木の間をわけて、
 遠くひびくよ、
 谷のながれ、
 鳥のなく音、
 きのこ取らん、
 『みやげとせん。』

一、われらの好む、秋きたれり、
 わらぢふみしめ、山に登る、
 紅葉うつくし、峰も谷も、
 白雲わきたつ、足のもとに。



秋の山

佐々木氏

秋の山

(と調二拍子)

感ナ込メテ 西洋曲

mf

5. 5 5. 3 | 2. 1 2. 3 | 5. 5 6. 5 | 1 0 |

1. ロレラノ コノムア キキタレ リ

2. タノシゲ ナルヨト リノナク ネ

f

5. 5 5. 3 | 2. 1 2. 3 | 5. 5 6. 5 | 1 0 |

ララガフ ミシメヤ マニノボル

トホクヒヒクヨタ ニノナガレ

mf

5. 3 1. 3 | 2. 1 2. 3 | 5. 3 1. 5 | 6 0. 6 |

モミゲウ ツクシミ ネモタニモ シ

コノマチラケテキノコトランク

mf

5. 3 4. 2 | 3. 1 2. 3 | 5. 5 6. 5 | 1 0 ||

ラクモラ キタツア シノモトニ

リノミヒロヒテミ ヤゲトヤン

秋の山



助船

一、はげしき雨風、天地くらく、
山なすあら波、たけり狂ふ。
見よ、見よ、かしこに、あはれ小舟、
生死のさかひと、救もとむ。
救を求むる、聲はすれど、
この風、この波、誰もゆかず。
見よ、見よ、こぎづる、すくひ小舟、
けなげのをのこら、守れ、神よ。

鍵子 男子

三七



助

船

佐々木氏

助 船

(變ろ調六拍子)

熱心ニ

西洋曲

助船



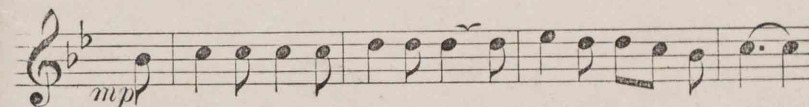
5 | 3 3 3 i | 2 i 6 5 5 | i i i 2 3 | 2. 2 |

1. ハ グ シ キ ア メー カ セ テ ン ナ クー ラ ク
2. ス ク ヒ チ モ トー ム ル コ エ ハ スー レ ド



5 | 3 3 3 i | 2 i 6 5 5 | i i 7 i 2 | i. i |

ナ マ ナ ス ア ラー ナ ミ タ ク リ クー ル フ
コ ノ カ セ コ ノー ナ ミ タ レ ム ユー カ ズ



i | 2 2 2 2 | 3 3 3 3 | 4 3 3 2. i | 2. 2 |

ミ ヨ ミ ヨ カ シ コ ニ ア ハ レ ナー プ ネ
ミ ヨ ミ ヨ コ ギ ヅ ル ス ク ヒ ナー プ ネ



5 | 3 3 3 i | 2 i 6 5 5 | i i 7 i 2 | i. i ||

シ ョー シ ノ サ カー ヒ ト ス ク ヒ モー ト ム
ケ ナ ゲ ノ ナ ノー コ ラ マ モ レ カー ミ ヨ

三六

源 義 經

(變ろ調二拍子)

田村氏

悲 壯 ヌ

1. 2. 3. 4. 1. 2. 3. 4. 1. 2. 3. 4. 1. 2. 3. 4.

ヘイアヘ
イカニイ
ゲアヨケ
ノーリノ
タコトジ
タノモン
カテハセ
ヒキーシ
カウツイ
チチシユ
シヤーノ
ヨアニタ
リリテニ

ヘロヘマ
イガイヘ
ケイナハ
ノヘー
イフアセ
チタグッ
ゾタメツ
クビトノ
トオキウ
キコキミ
チサシヒ
エンヨロ
テトリク

グダヨウ
ニイナシ
ジモヒロ
ハニハ
アタツケ
レテーン
ドタギソ
モルテニ
ナヨハナ
キシセモ
ゴツイタ
トネタカ
クハリキ

△△トヒ
ネツモヨ
ハーハ
ンノニリ
シクテコ
パニキエ
シニニニ
モゾー
アスマツ
スミカヅ
ラキヒキ
レタケタ
ズルルリ

源義經

三八

源 義 經
大和田氏

一、平治の戦、勝ちしより、

平家の一族、時を得て、

源氏はあれども、なき如く、

無念^{むねん}しばしも、忘られず。

二、いかでこの敵、うち破り、

我家ふたたび、起さんと、

大望^{たいぼう}たてたる、義經は、

陸奥の國にぞ、住みわたる。

源義經

三、兄、頼朝は 豆州^{まめしゅう}にて、

兵を擧げぬと、聞きしより、

夜を日につぎて、はせ^走いたり、

ともに敵にぞ、向ひける。

四、平家の陣^{じん}せし、一の谷、

前は攝津の海廣く、

うしろは嶮^{けん}岨^そに 名も高き、

鴨^鴨越^越に 續^{つづ}きたり。

三九

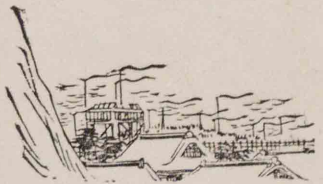
五、敵は寄せじと、油斷せし、

四〇

ひまを見すます 義經は、

疾風、迅雨と 攻め落す、

勢たれか 當るべき。」

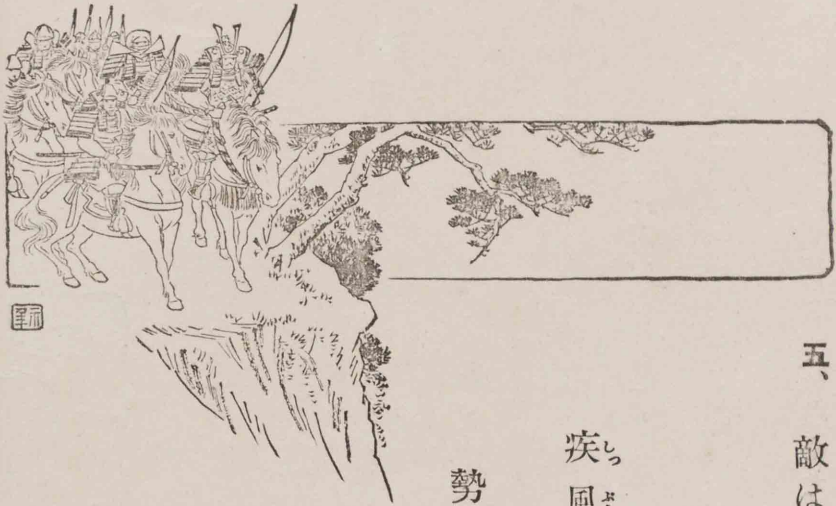


六、軍馬のいななき、嘶 とき聞の聲、

天にひびきて すさまじく、

平軍、戦ふ間もあらで、

滅びし將士、算もなし。」



七、ここを逃れし 人人は、

讃岐の屋島に、至りしを、

再び船より 押し寄せて、

連戦、博せし 大捷利。」

九、あゝ、かくまでに 功ありし、

九郎判官 義經の、

平家ほろびて、頼朝に、

忌まれたりしぞ、遺憾なる。」

八、つひに追ひつめ、攻め伏せて、

息の根さしし、壇の浦、

海に沈みて 死せざるは、

のこらず捕虜としたりけり。」

十、されども永く 千載に、

残す美名は かがやきて、

歴史を照らす 物語、

朽ちせじ天地の あらんほど。」

養老の瀧

(ハ調二拍子)

田村氏

養老の瀧

優美ニ

1. コーシメンテナチウカシテ
2. コイハマニカカルイマカスダレ

6. サケトナリタキ
7. ナムキ

2. ヨロモ
5. ノソ

1. ナフカケヲケイレバ
3. ナモアカクメカ

5. コケン
1. ムスノ
1. イハン
3. ノ

四三

(つづき)

2. 1 2 3 | 4 5 6 | 5. 3 2 3 | 1. 0 ||
コナダマレニテ ヒツビクメ タキノガミ トツ

養老の瀧

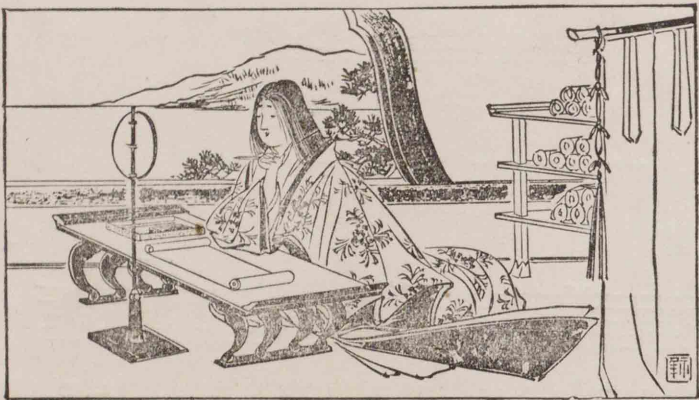
一、孝心、天地を動かして、酒となりたる瀧の水。
 養老の名をなつかしみ、山路を深くわけ入れれば、
 苔むす岩根、重なる老木、
 こだまにひびく、瀧のおと。

二、岩間にかかる玉すだれ、夏なほ寒き水けぶり、
 心もそぞろ、ゑふまでに、見れどもあかぬ眺めかな。
 天地の感應、孝子の美談、
 流れてつきぬ、瀧の水。

養老の瀧

石原氏

四二



紫式部



紫式部

坂 阪 氏

一、 たが ゆかりとて、かくばかり、
 色なつかしき、紫の、
 ことの葉草は、摘みいでし。

二、 根ざしも深き、藤浪の、
 咲きてかかれる、松が枝に、
 ならふ操の氣高きよ。

三、 あはれ、をのこにありせばと、
 人は惜みき、しかれども、
 姫百合ゆゑぞ、香は高さ。

紫式部

(に調三拍子)

温和ニ

内田氏

紫式部

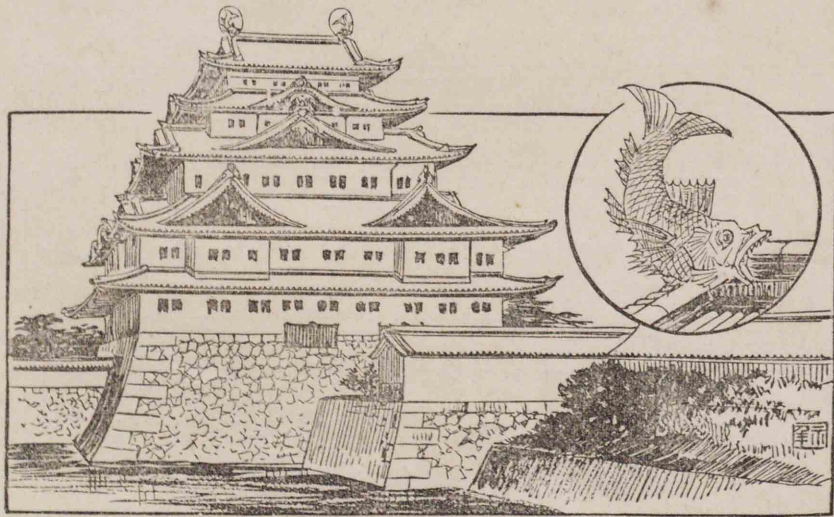
Musical score for 'Murasaki Shikibu' in 3/4 time, composed by Uchida. The score consists of four staves of music with three-part vocal harmonies. The lyrics are written below the notes.

1. ターガ ユーカ リート テ カク バー
 2. ネーザ シーモ フーカ テキ フーザ ナー
 3. アーハ レーチ ノーコ ニ アーリ セー

1-2 3-0 i-7 i-6 5-6 5-0
 カー ヲ イーロ ナーツ カーシ キル
 ミー サー テーカ ナーレ カーレ
 パー ト ヒー ト ハー チ シー ミ キ

6-6 5-3 1-3 2-0 5-6 5-3 2
 ムーラ サー キー ノー コート ノーハ
 マーツ ガー エー ニー ナーラ フーミ
 シーカ レー ドー モー ヒーメ ユーリ

1-3 5-0 6-i 5-3 2-3 1-0
 グーサ ハ ツーミ イー デー シ
 サー ナ ノ ケーダ イーカ サー ミ
 ムーエ ヅ ケーハ ターカ サー ヨ
 キ



一、尾張の名古屋は、お城の名所、

見よや、畑の菜種の末に、

霞みて立てる景色を。

二、こがねのしちほこ、朝日に映じ、

見よや、空に鱗も鱗も、

きらめきわたる光を。

三、離宮となりしは、お城の名譽、

聞けや、昔、天守をここに、

きづきし人の話を。

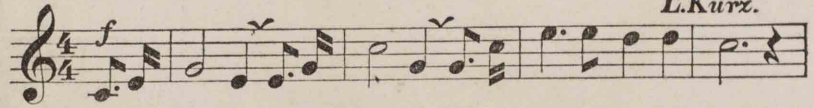
名古屋城 大和田氏

名古屋城

(は調四拍子)

壯大ニ

L.Kurz.



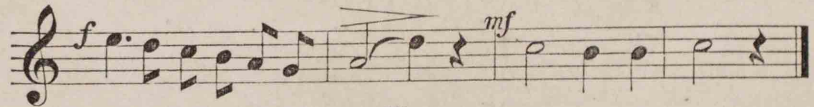
1. 3 | 5-3 3. 5 | i-5 5. i | 3. 3 2 2 | i-0 |

1. ナハ リーノ ナゴ ヤーハ ガシ ロノ メイ ショ
2. コガ ネーノ シヤチ ホーゴ アサ ヒニ エイ ツ
3. ヲ キュ ト ナリ シーハ ガシ ロノ メイ



6-i 7 6 | 5. 4 3 0 | 6 i 7 2 i 7 6 | 5 6 5 4 3 0 |

ミ-ヨ ヤー ハ タ ノ ナ ター ネー ノー ス-エ-ニ
ミ-ヨ ヤー ソ ラ ニ ウ ロ-コ-モ-ヒ-レ-ム
キ-ケ ヤー ム カ シ テ-ン-シュ-チ-コ-コ-ム



3. 2 | i 7 6 5 | 6-2 0 | i-7 7 | i-0 ||

カ ス ミ テ タ テ ル— ケー シ キ チ
キ ラ メ キ ロ タ ル— ヒー カ リ チ
キ ツ キ シ ヒ ト ノ— ハー ナ シ ャ

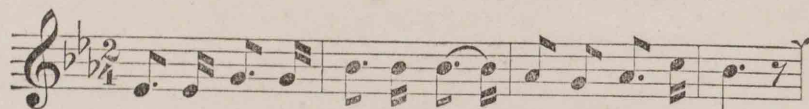
聯 隊 旗

(緩は調二拍子)

聯
隊
旗

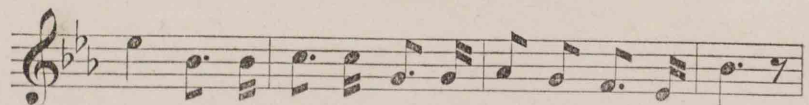
快 活 =

納 所 氏



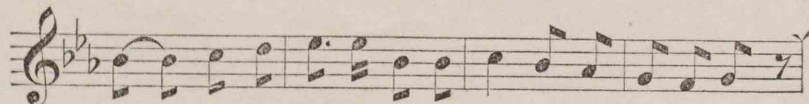
1. 1 3. 3 | 5. 5 5. 5 | 4 3 4. 6 | 5. 0

ソ ガ テ ン ノ ノ ミ テ ヅ カ ラ
ナ ー ガ キ ツ キ ヒ ノ ソ ノ ア ヒ ダ



i 5. 5 | 6. 6 3. 3 | 4 3 2. 1 | 5. 0

サ ツ ケ タ マ ヘ ル レ ン タ イ キ
カ セ ニ サ ラ サ レ ア メ ニ ヌ レ



5 5 6 7 | i. i 5 5 | 6 5 4 | 3 2 3 0

ハ ー タ ノ テ ガ ラ ハ ク ニ ノ ホ マ レ
グ ン バ ノ ア ヒ ダ チ オ ー ー ラ イ シ



5. 5 4 3 | 6. 6 5 4 | 3 4 3 | 2 1 0

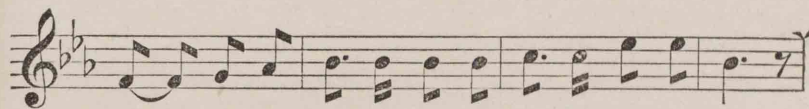
ハ ー タ ノ ケ ガ レ ハ ク ニ ノ ハ ダ
ク ロ キ チ ハ ー タ ノ ヒ カ リ ト シ

四
九

聯 隊 旗

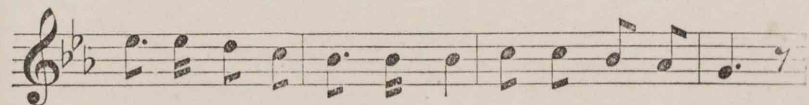
(つづき)

聯
隊
旗



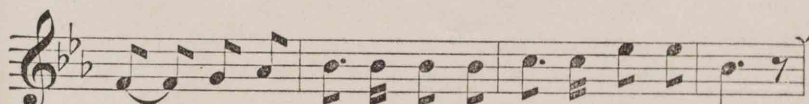
2 2 3 4 | 5. 5 5 5 | 6. 6 i i | 5. 0

サ ー チ ノ カ シ ラ ノ キ ッ カ コ ソ
サ ケ シ チ ハ タ ノ ホ マ レ ト シ



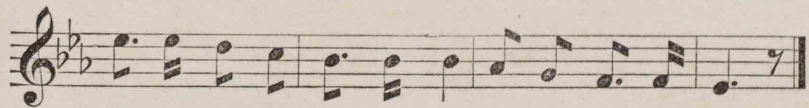
i. i 7 6 | 5. 5 5 | 6 6 5 4 | 3. 0

ソ ガ コ ー シ ツ ノ ヌ ム ン ナ レ
ヒ ト タ ビ エ テ ハ チ ヨ マ テ モ



2 2 3 4 | 5. 5 5 5 | 6. 6 i i | 5. 0

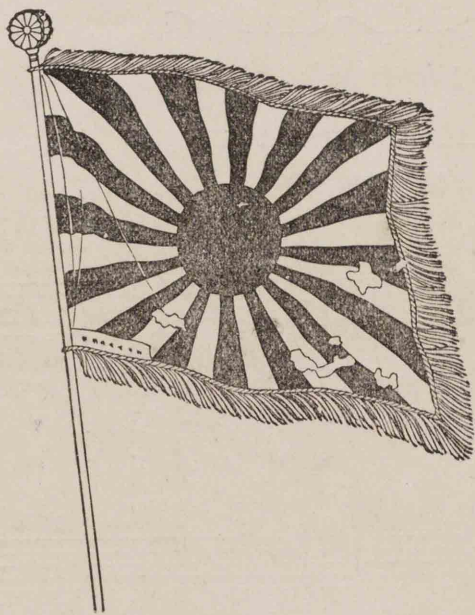
ハ ー タ ノ シ ル シ ノ ア サ ヒ コ ソ
ヨ ロ ツ ヨ マ テ ム ー ツ タ ヘ ユ ク



i. i 7 6 | 5. 5 5 | 4 3 2. 2 | 1. 0

ソ ガ テ イ コ ク ノ イ コ ー ナ レ
レ ン タ イ キ コ ソ タ フ ト ケ レ

四
八



わが天皇の、御手づから、

さづけたまへる 聯隊旗

旗のてがらは 國のほまれ、

旗のけがれは 國のはぢ。

竿のかしらの 菊花こそ、

わが皇室の 御紋なれ。

旗のしるしの 朝日こそ、

わが帝國の 威光なれ。

長き月日の、その間、

風に、さらされ、雨に、ぬれ、

軍馬の間を 往來し、

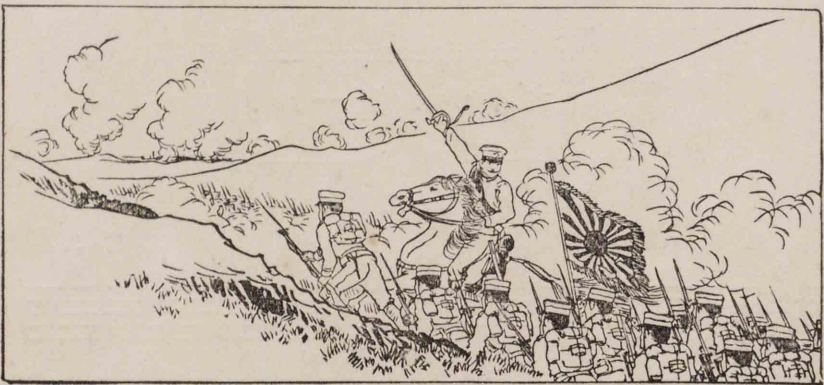
黒きを旗の ひかりとし、

さけしを旗の ほまれとし、

ひとたび、えては、千代までも、

萬代までも、つたへゆく

聯隊旗こそ たふとけれ。』





ナイチンゲール

将士思へば晝なほ暗し。

懸軍萬里、明日をも知らぬ、

故國の山河、たび傳はりて、

悲報一たび傳はりて、

思の外の敵ものすこし、

輜重はつがず、病者はまして、

あげし凱歌もゆめなれや、

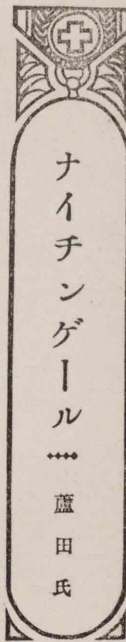
向ふところに敵はなく、

黒海こえし勇士幾萬、

ほこ横へて、ふなばたうちて、

なまぐさき風、吹きすさぶ。

クリミヤの野は、血に染みて、



ナイチンゲール 蘆田氏

ナイチンゲール

(ほ短調二拍子)

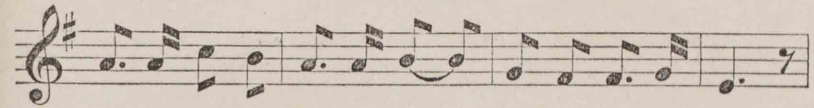
悲壯ニ

田村氏



6. 6 1 7 | 6. 6 7 7 | 3 6 7. 1 | 7. 0 |

1. クリミヤノノハナニソミテ
2. ムーカフトコロニテキハナク



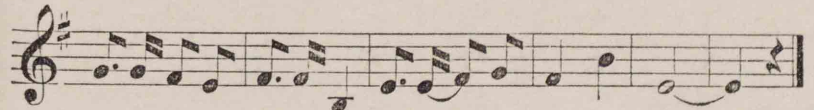
2. 2 4 3 | 2. 2 3 3 | 1 7 7. 1 | 6. 0 |

ナマダサキカセーフキスサア
アゲシガイカモユメナレヤ



6. 6 4 4 | 3. 3 2 3 | 4. 4 3 1 | 3 1 7 0 |

ホコヨコタヘテフナバタウチテ
シチョーハツーガズビョーシャハマシテ



1. 1 7 6 | 7. 7 3 | 6. 6 7 1 | 7. 3 | 6. 0 |

コッカイコエシユーシイクマ
オモヒノホカノテキモノスゴシ

ナイチンゲール

四、

愛よりもゆるまごころの、

救すくの光 かがやきぬ。

身をばささげて 國家のために、

戦地に向ふ、婦人一隊。

五、

枕まくらならぶる 幾千の、

やつれし兵士みとりつつ、

深夜、音なき病室さむく、

白衣びやくえとともに 燈光とうかううごく。



六、

重きやまひに 犯まかされて、

生死しんじあやふき 身ながらも、

われ、もし、不幸、この地に死なば、

永く、將士の ともとしならむ。

七、

なさけの雨に、限なき、

うらみは消えて 春はきぬ。

傷病兵の 神としあふぐ、

ナイチンゲール、あはれ、尊し。

八、

凱旋がいせん兵士、歓迎かんげいの、

こゑは天地にとどろきぬ。

これにもまして 世を動かしし、

ほまれは高し、婦人のいさを。

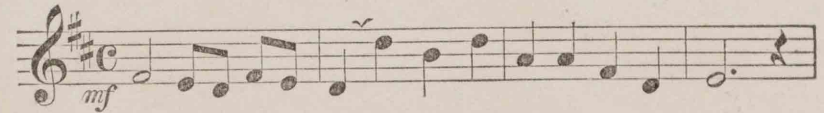
北國の雪

(に調四拍子)

淋シゲニ

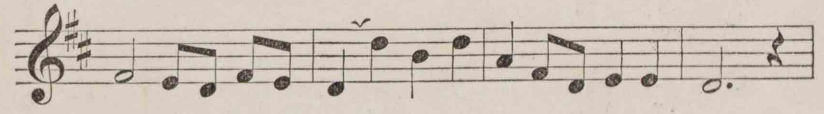
西洋曲

北國の雪



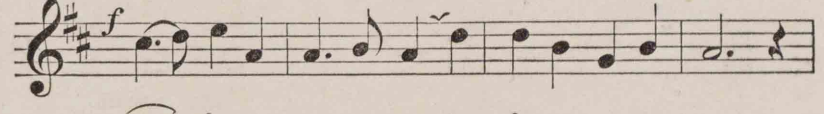
3-2 1 3 2 | 1 i 6 i | 5 5 3 1 | 2- 0 |

1. シーモ ツー キ ハ ヤ グ フ リ ソ メ ナ テ
 2. キーノ フー モ ハ ケ ヲ フ ヤ ヲ リ マ ナ レ テ
 3. ノーキ バー ハ ノ ヲ キ カ デ リ ム ヲ ソ レ ヒ
 4. ウーヅ キー



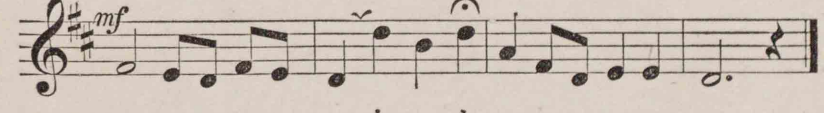
3-2 1 3 2 | 1 i 6 i | 5 3 1 2 2 | 1- 0 |

ヤーヨ ヒー ノ ヒ ニ モ キ エ ヤ ラ ヌ
 ツーモ レー ル ウ サ ヘ モ フ リ ノ ツ ミ テ
 フーミ ヲ シー ム マ ヲ ド モ ホ ト ケ イ デ
 イーツ シー カ ヲ キ モ ト



7. i 2 5 | 5. 6 5 i | i 6 4 6 | 5- 0 |

ユーキ ナ ト モ ニ ト シ ノ ナ カ バ
 ヤー ト ナ リ ノ ド ハ モ ノ ヲ キ キ ミ サ チ
 トーリ ノ コ エ モ ヲ ヲ キ シ ゲ ヘ モ テ



3-2 1 3 2 | 1 i 6 i | 5 3 1 2 2 | 1- 0 ||

コーシ ギー ノ フ ユ ノ イ ト ナ ガ キ
 サーカ カー ハ ミ エ ズ タ ヒ サ ラ カ
 フーヅ カー ニ タ ド ル ヒ サ シ ミ グ
 イーチ シー

五六

北國の雪

大和田氏

一、霜月早く 降りそめて、

彌生の日にも 消えやらぬ、

雪を友に 年のなかば、

越路の冬の いと長き。

三、昨日も今日も やむ間なく、

つもれる上に 降り積みて、

山も川も 森も道も、

さかひは見えず たひらかに。」

北國の雪

三、軒端は雪に うづもれて、

書よむ窓も ほのぐらく、

隣りどちの 往來さへも、

僅にたどる ひさし道。」

四、卯月の日影 照りそひて、

いつしか雪も 融けいでつ、

鳥の聲も 嬉しげにて、

一時に笑ふ うめ・さくら。」

五七

源 爲 朝

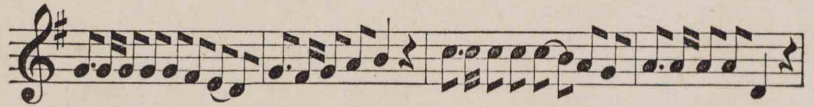
(と調四拍子)

勇 壯 ニ

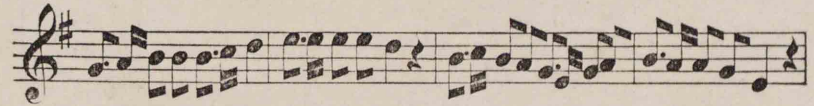
岡 野 氏



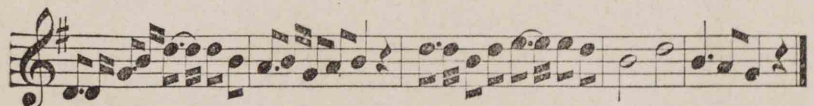
5. 5 5- | 3. 4 5 5 | 0 3 2 1 | 2-5 0 |
 1. コク ウントー ザ ス シ ラ カ ハーデン
 2. エン エン ヴ ヅ マ ク シ ラ カ ハーデン



1. 1111765 | 1.712 30 | 4.4444 321 | 2.2 22 5 0 |
 ■ ウチノサクモー アダトナリ マクトハシーレド マケヌキノ
 オトニキコエシ ゴーキューノ ヤオモニターキハ アラネドモ



1. 2 3 33.45 | 6.666 5 0 | 3.4321.612 | 3.22 1 6 0 |
 イッ ポモロカヌ テッセキシキヨモリナンドノ ヘロヘロヤ
 タツルルタイカイチボクニ サーサヘカネタル ムネンサチ



5.51.35.553 2.3123 0 | 5.5356.665 | 3-5- 3.210 |
 タツヨシモーナキニシノモン マモリハカータシチンセイハチロー
 イッシニムクイテオチユキシ アートヤツダヘシシュンチンオートー

朝

五八

源 爲 朝
 大橋氏

一、黒雲とざす 白河殿

夜討の策も 仇となり、

負くとは知れど 負けぬ氣の、

一步も引かぬ 鐵石心、

清盛なんどの へろへろ矢、

立つよしもなき 西の門、

守は固し、鎮西八郎。」

源爲朝

二、炎燄うづまく 白河殿

音に聞えし 強弓の、

矢面に敵は あらねども、

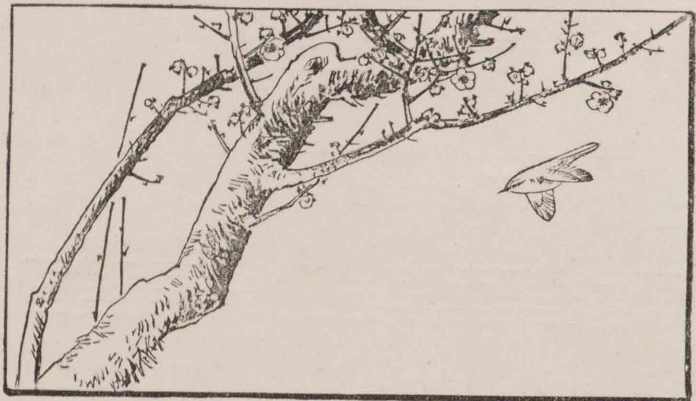
くづるる大廈 一木に、

支へかねたる 無念さを、

一矢にむくいて 落ち行きし、

跡や傳へし、舜天王統。」

五九



梅の花

大和田氏

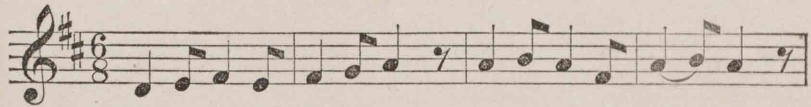
一、寒^{さむ}を侵^かし、雪^{ゆき}を凌^{しの}ぎ、
 梅の花
 いざ、一もと窓^{まど}に植^うゑて、
 耐^たふる心の友^{とも}とせん。
 二、花^{はな}の兄^{あに}と、人^{ひと}に呼^よばれ、
 春^{はる}に先^まだつ梅^{うめ}の花^{はな}。
 いざ、一^{ひと}枝^{えだ}瓶^{びん}にさして、
 進^{すす}む心の友^{とも}とせん。
 三、白^{しろ}き姿^{すがた}高^{たか}き香^かり、
 暗^{くら}い胸^{むね}につけて、
 清^{きよ}き輪^{りん}心の友^{とも}とせん。
 六二

梅の花

(に調六拍子)

優美ニ

田村氏



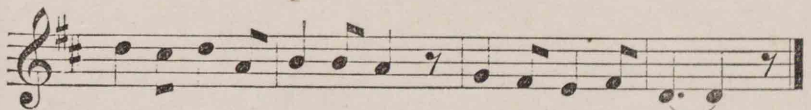
1. サムサチオカシユキチシノーギ
 2. ハナナノアニスガトタヒトニヨバチ
 3. シーロキスガタメカキカチ



1. ニホルヒイテタルウメノハナナ
 2. ハルニサモシツキウメノハナ
 3. ヤミニモシキウメノハナ



1. イザヒトモトダマドニウエテ
 2. ザザヒトモトダマドニウエテ
 3. ザザヒトモトダマドニウエテ

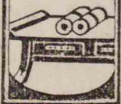


1. ダフルココノトモトセ
 2. ススルココノトモトセ
 3. キヨルココノトモトセ



一、あふげやあふげ、人人
 あふぎ尊め、人人
 國のためにと、山ゆき野へゆき、
 つくしけるきみが、いさをを。
 二、あふげやあふげ、人人
 あふぎ尊め、人人
 はてはかなしや、賊手に倒れて、
 うせたまふきみが、いさをを。

護良親王
 武島氏



護良親王

(ほ短調三拍子)

Slowly. J.R. Werber.

6. 7. 1 2 | 3. 4 3 1 | 2 2 3 | 1-0 |

1. ア フ ゲ ヤ ア フ ゲ ヒ ト - ビ ト
 2. 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、

1. 2 3 4 | 5. 6 5 3 | 4 4 3 | 2-0 |

ア フ ギ タ フ ト メ ヒ ト - ビ ト
 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、

5 5 2 1 2 | 3 3 2 1 | 2 2 2 1 7 | 1 1 7 |

ク ニ ノ タ - メ ニ ト ヤ マ コ キ ノ - ベ ユ キ
 ハ テ ハ ガ - ナ シ ヤ ソ ク シ ユ ニ タ - フ レ テ

3 | 6. 7. 1 2 | 3. 4 3 6 | 3 1 7 | 6-0 ||

ツ ク シ ケ ル キ ミ ガ イ サ - ナ ナ
 ウ セ タ マ フ キ ミ ガ イ サ - ナ

終業式の歌

(變ろ調二拍子)

田村氏

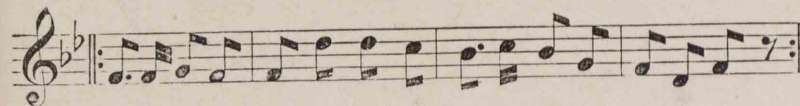
中等ニ



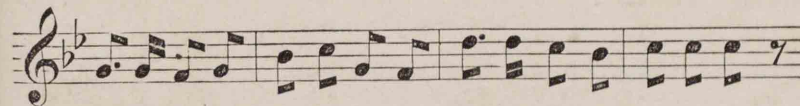
1. 1 1 5 5 | 6. 6 5 3 | 2. 1 2 3 | 5 6 5 0 |
 ス ギ ユ ク ツ キ ヒ ハ コ ヨ リ ハ ヤ ク
 2. ダ イ イ チ ガ ッ キ モ イ ツ シ カ ハ テ テ



1. 1 1 5 5 | 6. 6 5 3 | 2. 1 2 5 | 3 2 1 0 |
 ダ イ イ チ ガ ッ キ モ イ ツ シ カ ハ テ メ
 ヲ レ シ キ キ ユー カ ハ イ マ ヨ リ ハ イ ク カ



5. 5 6 5 | 5 3 3 2 | 1. 2 1 6 | 5 3 5 0 :||
 ア サ ユ フ タ ド リ シ マ ナ ビ ノ ミ チ ニ
 ア ツ メ シ タ マ コ リ シ コ マ ヨ ナ キ ノ イ ヘ ツ ト
 ユ フ ユ ミ サ ク タ ソ ビ ヨ リ ヨ ク ア サ ユ フ ノ カ リ



6. 6 5 6 | 1 2 6 5 | 3. 3 2 1 | 2 2 2 0 |
 モ ロ テ ニ サ サ ガ テ イ ザ イ ザ ユ カ
 フ タ タ ビ ア ヒ ミ ル ソ ノ ヒ チ マ タ



3. 2 1 1 | 2. 2 5 5 | 6. 6 5 6 | 3 2 7 | 1- 1 0 ||
 サ ラ バ ヨ シ ノ キ ミ サ ラ バ ヨ ヲ ガ ト モ

終業式の歌

六四

終業式の歌

大橋氏

一、過ぎ行く月日は

駒より早く、

二、第一二二学期も、

いつしかはてて、

第一二二学期も、

いつしかはてぬ。

うれしき休暇は

今よりいくか、

朝夕たどりし 學の路に、

集めし玉こそ こよなき家裏。

ゆくてに聳ゆる 學の高峰、

ふみさく體力、朝夕ねりて、

もろ手にささげて、

いざいざ行かん、

再びあひ見る、

その日を待たん、

さらばよ、師の君、

さらばよ、わが友。」

さらばよ、師の君、

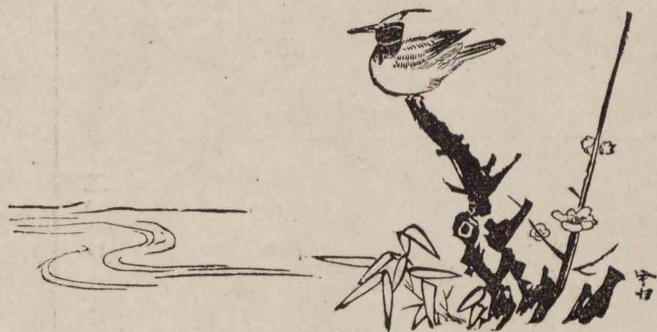
さらばよ、わが友。」

終業式の歌

六五

大正三年四月十二日印刷
大正三年四月十五日發行

尋常小學唱歌第五學年
定價金貳拾五錢



不許
著作權
所有
複製

| | | | | | |
|---------------------------|---------------------------|------------------------|------|-------|------|
| 印刷所 | 印刷者 | 發行者 | 同 | 同 | 著作 |
| 宮本印刷所 | 綾部喜久二 | 佐藤勝太郎 | 田村虎藏 | 納所辨次郎 | 大橋銅造 |
| 東京市神田區
雜司谷三丁目
三十四番地 | 東京市神田區
雜司谷三丁目
三十四番地 | 東京市京橋區
築地一丁目
六番地 | | | |

東京市日本橋區新右衛門町拾六番地

發賣所

株式會社
國定教科書共同販賣所

1914.7.17

広島大学図書

0130449467

